

研究課題 (テーマ)		富山県の訪問看護における訪問看護の充実に関する研究 －訪問看護ステーションの実態と訪問看護の充実を促進する要因－	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科	准教授	河野由美子
分担者	看護学科	講師	山崎智可
	石川県立看護大学	助教 准教授	北林正子 桜井志保美
研究結果の概要			
<p>富山県内の訪問看護ステーションの実態を把握し、訪問看護の充実を促進する要因を明らかにすることを目的に、富山県内の訪問看護師を対象にアンケート調査を実施した。</p> <p>その結果、118名から回答を得た。女性は98%、平均年齢48.26歳(±9.52)、20歳代は3名(2.6%)、30歳代19名(16.2%)、40～50歳代79名(67%)、60歳代16名(2.7%)であった。勤務形態では約75%がフルタイムの常勤として従事していた。</p> <p>平均看護師経験年数24.46年(±10.46)、平均訪問看護師経験年数6.77年(±5.99)で、経験年数1～2年31%、10年以上23.9%であった。平均訪問人数は1週間13.8人(±7.75)、訪問内容は複数回答で、観察・健康チェック、内服管理指導、生活援助が90%以上、医療処置89.8%、家族支援87.3%、ターミナルケア44.9%等であった。</p> <p>先行研究に比して平均看護師歴は長く経験の多い人が訪問看護師として従事しているが、訪問看護師経験年数、常勤者割合は先行研究と同様の結果であった。</p> <p>主観的健康状態について、健康である64.1%、健康ではない35.9%と回答していた。何らかの症状があるのは86.4%、具体的に首・肩のこり61.0%、疲れが取れない47.5%等が多かった。またバーンアウト尺度の平均点は、情緒的消耗感13.38(±4.50)、脱人格化15.73(±4.39)であり、先行研究と同様に平均的であった。しかし、個人的達成感は10.21(±3.7)と低くストレスを感じている人が多いことが明らかになった。健康であるか否かとバーンアウト得点を比較すると健康でない人は情緒的消耗感を感じており、ストレスが高い傾向にあることが明らかになった。</p> <p>一方、職務満足度については「訪問看護師として働くことに喜びを感じている」と思っているのは86%であり、概ね満足していると考えられる。しかし、「職場の上司・同僚から認められ期待されている」と思わない人が42.6%、また、「仕事を通じて自分の能力を伸ばし成長している」と思わない人が32.2%存在することが明らかになった。この2項目はバーンアウト尺度との比較においても個人的達成感得点が低く自分を認めてもらえないこと、仕事で成長できていないことにストレスを感じていると考える。</p> <p>以上のことから、富山県の訪問看護師は訪問看護にやりがいを感じているが、自身の能力向上ができるようにすること、他者から期待されると感じることであればより充実促進につながるのではないかと考える。</p>			
今後の展開			
<p>訪問看護師として必要な能力について、具体的に文献検討、調査分析を行うことが必要と考える。その能力を明らかにし、能力向上への支援を検討する。</p> <p>また、同時に訪問看護師のストレスを軽減することは重要であり、ストレスを軽減することで能力を高めるための意欲につながると考えられるため、今後さらに調査を進めストレス軽減への支援を検討したい。</p>			